

f t 荒井和樹 @ffc231

日弁連貧困問題全国キャラバン（滋賀）
「居場所」のない若者の『居場所』をさがしてつくって

子ども、若者、路上生活者とつくる 街角相談所・ボランティアセンター



全国こども福祉センター 理事長
中京学院大学 専任講師 荒井和樹

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

2005年-2011年

児童養護施設職員として在職中、支援から逃走する子ども・若者と出会う。施設型支援の課題から、街中で声かけと交流、相談支援を開始。



Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

日本の児童福祉の特徴



治安対策・労働力確保を目的とした児童保護から始まる。学校や施設などに専門職を配置し、機能をさせている。



大企業やNPO、慈善団体などから
が集まる

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

- の強制
- の強制
- 携帯電話の所持不可
- 通帳やお金は職員管理
- 禁止など

子ども達からは、**怒り**の声も...

_____と引き換えに、**管理・支配的**
な環境に置かれてしまう。

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

f t 荒井和樹 @ffc231

『子ども・若者が創るアウトリーチ』
子ども家庭福祉の役割と課題p111-

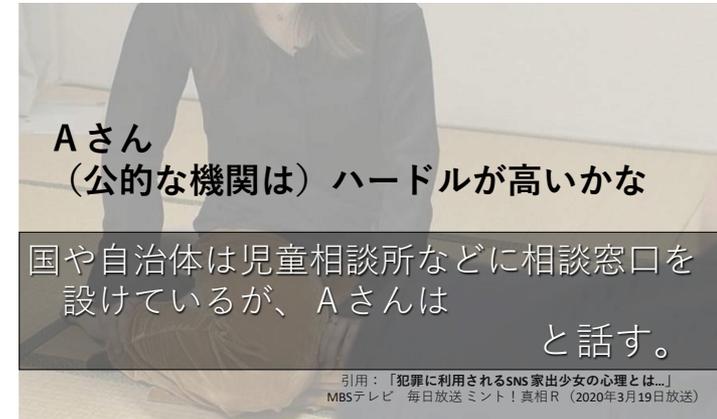
子ども・若者が
助けを求められない理由

(※支援団体43団体の自由記述から)

2位 情報発信が不足している (28)
3位 援助を求める力が低い (27)

出典：『トヨタ財団2017年度国内助成プログラム「声なき声」に支援を届ける
—新たなアウトリーチ展開のための調査—調査報告書』NPO法人OVAより

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.



「 」の方がマシ (10代少女)

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

f t 荒井和樹 @ffc231

2012年-現在
人々を支援や保護の対象(客体)として捉える
のではなく、仲間として迎え、**全国こども福祉
センター**設立。対話や交流・活動機会を提供。



Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.



f t 荒井和樹 @ffc231

- 全国こども福祉センター／
- ①声かけを行う街角相談所
 - ②公開の場における交流の場
 - ③街角ボランティアセンター



Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

虐待から逃れようと家出したBさん



出典：「家ではうまく呼吸できない 親の虐待 コロナ禍の少女」中京テレビ2020年10月16日放送

下校中、色鮮やかな着ぐるみの集団が目についた。

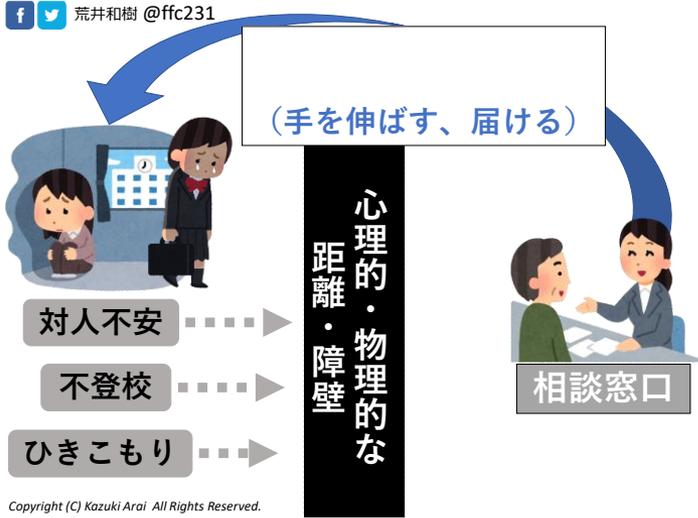


Cはアニメが好きなので思わず立ち止まり、着ぐるみの集団に近づき、目を合わせた。Cは「何をしているの?」と尋ね、説明を受けたが、活動内容は理解できなかった。着ぐるみと集団の放つ雰囲気が「楽しそう」だと思った。スタッフと、Cは連絡先を交換した。Cは毎週、顔を出すようになった。

スキル

『子ども若者が創るアウトリーチ』
アウトリーチの展開過程とスキルp168

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.



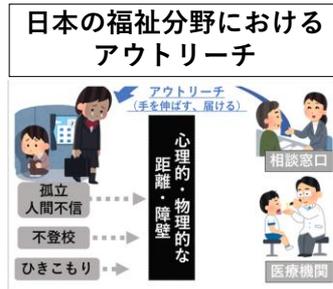
日本 …全国こども福祉センター
 フランス …路上エドゥケーター
 スウェーデン …フィールドワーカー

属人的なアウトリーチの技術を一般化



出典：「居場所のない子ども」どう支える 警察は「ドン横キッズ」一斉補導チャット！
 CBCテレビ (2022年6月13日放送)

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.



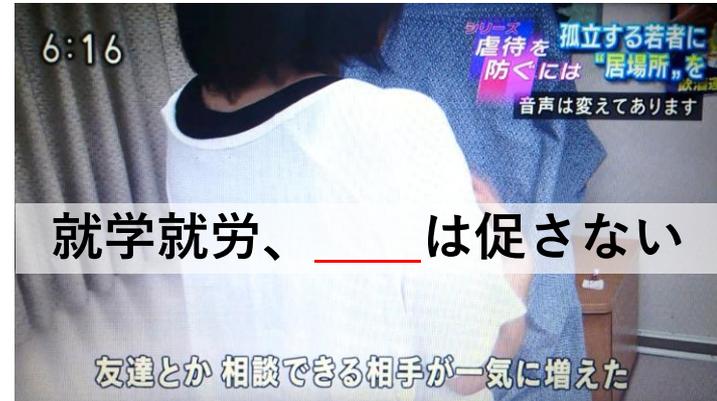
訪問、支援
保護、適応

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.



対話、交流

音楽・芸術分野では協創
 協奏・協働など双方向性
 が重視されている



「虐待を防ぐには 孤立する若者に“居場所”を」NHK総合ほっとイブニング (2014年9月16日放送)
 Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

なぜ、仲間として迎え 交流や活動を続けるのか？



声かけすると「**手伝うよ。何か出来ることある？**」という反応が多かった。支援を押しつけるより、継続的にかかわり、互いの理解を深めることが重要と考えた。

- ①患者や被支援者役割を引き受けることは、**スティグマ**を伴う。
- ②とくに地方は匿名性が低く、**偏見が根強く残る**傾向がある。

少女D（15歳）

小学校から不登校です。
中学校は一日も登校してません。

母親とは会わないし、ほとんど話さないです。
母はご飯を作りません。カップ麺やお菓子を食べています。

援助機関は利用したことある？

なぜ全国こども福祉センターに参加しているの？
声をかけられたから。着ぐるみの人達は優しいから好きです。

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

ドン横・トーヨコ問題

ドン横に集う → 薬物、OD

- 入院 児相中心で関わる
 - 施設 施設を拒否（退所）
 - ドン横に戻る
- 看護師・医療ソーシャルワーカー、
児童相談所、警察は対応困難

→ **全国こども福祉センターに
相談・依頼が殺到**

Copyright (C) Kazuki Arai All Rights Reserved.

施設や路上生活、非行や障害を抱えるなど
多様な背景を抱える子ども若者



出典：「家ではうまく呼吸できない 親の虐待 コロナ禍の少女」
中京テレビ2020年10月16日放送

彼らは**要支援対象者**として扱われてきたが
センターでは_____として迎える

同じ参加でも、**子ども食堂・フードバンク**など
(食事を)与えられる経験と「」
として活動する経験は、大きく異なる



仲間の必要なものは何か考え、
フードバンクへの連絡、食材の
調達、提供までを行う少女E。

人間は受動的に与えられた報酬より
も、**自分から** **報酬に、**
より大きな反応を示す¹

自分の力で働いて誰かの役に立ち、
社会に貢献できるということは、
人間の精神の を示すもの²

1 『選択の科学』シーナ・アイエンガー文藝春秋2010
2 『生きづらさを抱える若者たち』小林朝2018いのちのことば社87頁

この前オカさんやハジメさんに会いに行ったよ。そしたらオカさんはハイタッチしてくれたし、ハジメさんはまた来いよって言ってくれた。

そしてオカさんの「寂しい」が、わたしをいまも支えている。
Fさん(20代女性メンバー)



オカさんは会うたび、手を挙げ
「」と聞いてくれる

f t 荒井和樹 @ffc231

日弁連貧困問題全国キャラバン(滋賀)
「居場所」のない若者の『居場所』をさがしてつくって

**差異や隔たりを解消せず
傷つき、慈しみ、互いを尊び
貸し借りできる関係を築く**

《参加、応援、寄付》



参考資料

『選択の科学』シーナ・アイエンガー文藝春秋2010
『生きづらさを抱える若者たち』小林朝いのちのことば社2018
『子ども・若者が創るアウトリーチ』荒井和樹アイエス・エヌ2019
『自立へ追い立てる社会』広瀬義徳・桜井啓太インパクト出版会2020
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属共生のための国際哲学研究センター
<https://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/about/message/> センター長 梶谷真司 挨拶

「若者の自立を保障する社会へ」

若者が未来に希望を抱くことができる 社会の実現に向けた調査と提言

弁護士 松宮 徹郎

1

第61回人権擁護大会in青森(2018年10月4日～5日)

シンポジウム「日本の社会保障の崩壊と再生―若者に未来を―」

「若者が未来に希望を抱くことができる社会の実現 を求める決議」



日本弁護士連合会WEBサイト↑で公開してます。

https://www.nichibenren.or.jp/document/civil_liberties/year/2018/2018_3.html

2

日本の若者がおかれた状況

▶ 「学ぶ」という点

└ 学費高騰+脆弱な奨学金制度+学生生活を犠牲にさせるような拘束力の強いアルバイト → 教育格差, 学び直し困難

▶ 「働く」という点

└ 日本型雇用の崩壊+労働の規制緩和による非正規の増大+職業訓練を受ける機会の乏しさ → 格差の拡大, 固定化

▶ 「住む」という点

└ 公営住宅が少なく, 家賃補助制度もないに等しい
→ 親元を離れて独立生計を営むことが困難

▶ 「家族形成」「生活」という点

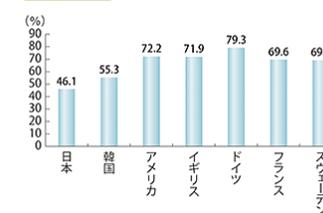
└ 子育て費用が大きい+乏しい子育て支援
→ 結婚して子どもを持つことは経済的にも仕事継続上もリスク大

3

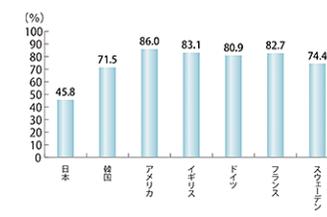
3

日本の若者の生きづらさー自己肯定感の喪失

図表16 職場の満足度



図表17 自分自身に満足している



(注)「あなたは、今の職場に満足を感じていますか」との問いに対し、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した者の割合。

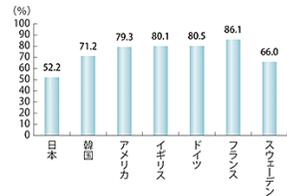
(注)「次のことがあなた自身にどのくらいあてはまりますか」との問いに対し、「私は、自分自身に満足している」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合。

内閣府・平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査

4

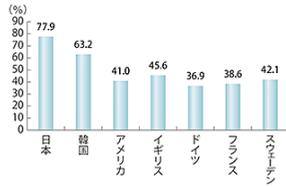
日本の若者の生きづらさ—意欲の喪失

図表3 うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む



(注) 「あのことがあなた自身にどのくらいあてはまりますか」との問いに対し、「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合。

図表5 ゆううつだと感じた



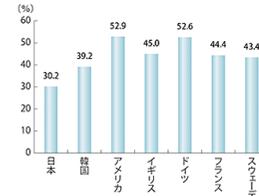
(注) この1週間の心の状態について「次のような気分やことがらに悩んで、あてはまるものをすべて選んでください」との問いに対し、「ゆううつだと感じたこと」に「あった」「どちらかといえばあった」と回答した者の割合。

内閣府・平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査

5

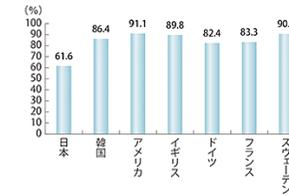
日本の若者の生きづらさ—影響力、希望の喪失

図表7 社会現象が変えられるかもしれない



(注) 「次のような意味について、あなたはどのように考えますか」との問いに対し、「思える程度に思える、思えてほしい程度に思える」と回答した者の割合。

図表8 将来への希望



(注) 「あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか」との問いに対し、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答した者の割合。

内閣府・平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査

6

先進7カ国の15～34歳の死因 —主要7カ国(G7)で死因の1位が自殺は日本だけ—



(注) 「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者をいう。

資料：世界保健機関資料（2016年12月）より厚生労働省自殺対策推進室作成

厚生労働省「平成29年度 自殺対策白書」

7

UNICEF「イノチェンティ レポートカード 16」

https://www.unicef.or.jp/library/pdf/labo_rc16j.pdf

- 日本の若者の身体的幸福度…1位(38国)
 - ①5-14歳死亡率 9位
 - ②5-19歳の過体重/肥満の割合 1位
- 精神的幸福度…37位(38国)
 - ①生活満足度 37位
 - ②10万人当たり自殺率 30位(40国)

「パラドックス」とも言える結果

8

なぜ?このような状況になっているのか?

➤このような若者が置かれている状況に影響を及ぼしている背景の一つとして「自己責任」という政策動向が考えられる。

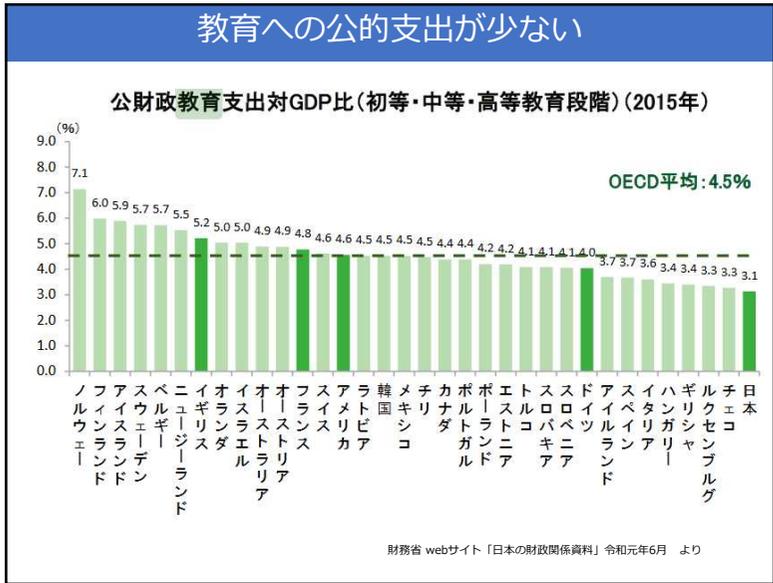
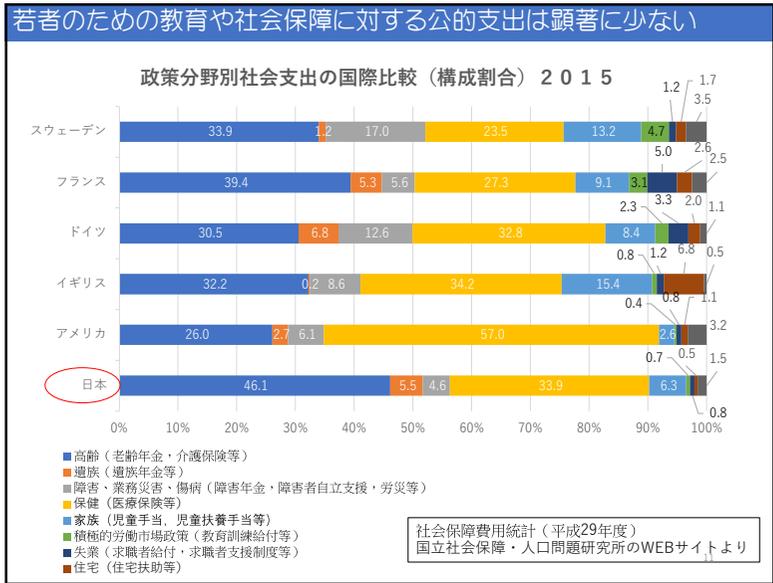
➤日本の社会保障制度において、近年、「自助」「共助」が強調され、社会保障費を削減する動きが強まっている。

日弁連Webサイト
https://www.nichibenren.or.jp/document/civil_liberties/year/2018/2018_3.html

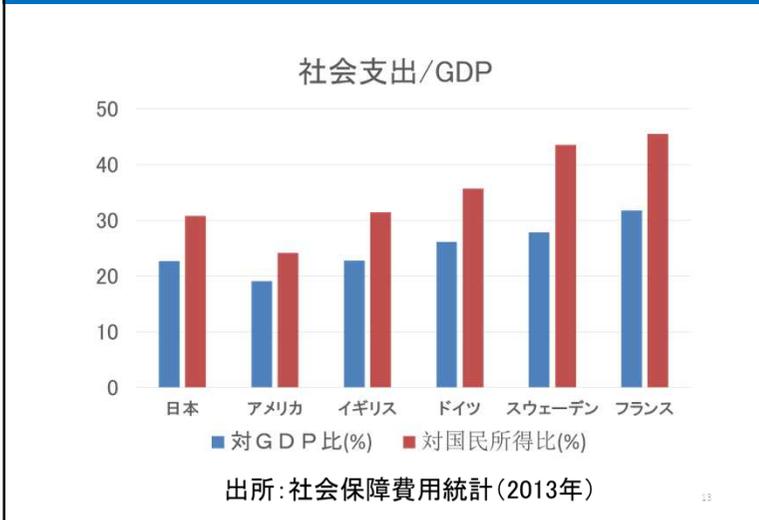
「自己責任」 ~若者未来サミットでの若者の発言~

- 親や学校の言うことに従うよう求められたり、周りからの同調圧力の中で育ちながら、高3で突然、選択を迫られる。
- 失敗が許されないから、大学進学率の良さと高校を選び、就職率の良さと大学を選んだ。
- 受験戦争はしんどい。見えない「敵」を蹴落とす。周囲をシャットアウト。
- 一度決めたら二度目はない。失敗や変更が許されず、一生が決まってしまう就活に必死になった。転職は条件悪化の一途。
- 将来の夢だった介護職だが、給料の低さを知り、「安定」を優先して他の職業を選んだ。
- 自分が無価値であることが怖い。高い学費を払ってもらったのに落ちこぼれて親に申し訳なく、社会の役に立たなければと必死だった。
- 「ルール」から外れてしまった自分に絶望してひきこもりになった。それも自分の責任。
- 子どもの頃から『義務を果たしたら権利がある』という感じで生きてきた。
- 「社会を変えよう」というより、「与えられた枠組の中で自分が生き残るために何とか頑張ろう」と自分のことで精一杯。

日弁連Webサイト
https://www.nichibenren.or.jp/library/pdf/activity/human/poverty_issue/youth_summit_hokoku.pdf



そもそも社会保障に対する公的支出の割合が他国より小さい



13

若者のための社会保障制度と労働の「グランドデザイン」の提言

- ▶ 日本は、「どんな若者も等しく、自ら人生を選択し自己を実現することができる社会構造」となっており、日本の若者は、生きづらさを「自己責任」として受容させられてしまっている。
- ▶ こうした現状は、個人の尊厳原理に立脚し幸福追求権について最大の尊重を求めている憲法13条、生存権を保障する憲法25条等に照らし到底看過することはできない。また、民主主義社会の危機である。
- ▶ そこで、当連合会は、一人ひとりの若者が自分の人生や生き方を自己決定できる機会を保障し、若者が希望をもって今を生き、自由な再チャレンジが保障されることで未来にも明るい希望を抱ける社会の実現に向けて、国及び地方公共団体に、次の施策の実施を求める。

日弁連Webサイト

https://www.nichibenren.or.jp/document/civil_liberties/year/2018/2018_3.html

14

14

若者のための社会保障制度と労働の「グランドデザイン」の提言

- 1 普遍主義の社会保障・人間らしい労働と公正な分配
 - (1) 若者が置かれた現状を改善するものとして、全ての若者が、「生まれた家庭」の経済力や性別など自ら選択できない条件に左右されることなく、試行錯誤をしながら、学び、就労し、生活基盤を構築できる公平な条件を整備するため、
 - ① 就学前教育・保育から高等教育までの全ての教育の無償化
 - ② 出産・育児休業、家族給付などの給付の拡充
 - ③ 尊厳ある生活を保障する水準の最低賃金、同一価値労働同一賃金の実現、
 - ④ 失業時の所得保障及び職業訓練制度の抜本的充実、
 - ⑤ 低所得者層のみの利用にとどまらない公営住宅の増設と家賃補助制度の新設をすべきである。

† https://www.nichibenren.or.jp/document/civil_liberties/year/2018/2018_3.html

15

若者のための社会保障制度と労働の「グランドデザイン」の提言

- 1 普遍主義の社会保障・人間らしい労働と公正な分配
 - (2) 若者が現在及び未来に希望を抱くことができるような制度、殊に保険料、一部負担金が納められないことにより、各種サービスや保障制度を利用できないことがないよう、
 - ① 窓口負担のない税方式による医療・介護・障害福祉サービス
 - ② 尊厳を保障する水準の税方式による最低保障年金制度を構築すべきである。

日弁連Webサイト

https://www.nichibenren.or.jp/document/civil_liberties/year/2018/2018_3.html

16

16

個人的な活動としての若者支援

1. 子ども110番へのSOS ⇒家を出たい。出てしまった。
2. 若者支援団体からのオファー ⇒数個の団体が連携
例) 妊娠、家出、各種トラブルへの対応
3. 児童相談所等からのオファー ⇒未成年後見⇒成年後見
4. 学習支援からの関わり
5. 直接電話からの関わり

17

17

日弁連委託援助事業

子どもが弁護士による法的支援を必要としているが、
①法定代理人である親権者が弁護士を依頼する意思がない（親権者から虐待を受けている場合も含む）など、子どもの希望にもかかわらず弁護士を依頼することができない場合、
②親権者に弁護士を依頼する意思はあるが資力がなく、かつ、民事法律扶助の対象とならない事業の場合に弁護士費用を援助する制度

※子どもの経済的負担なく弁護士を依頼できる。弁護士費用を日弁連が負担。

※また、弁護士が生活保護の申請に同行する費用を日弁連が負担する。

18

18

日弁連委託援助事業

【対象事件】

- 親からの虐待（家出などで、親子間やシェルターの調整）
- 親が学費を出してくれない。交渉したい。
- 学校のいじめなどで親が適切に対応してくれない。
- 両親の離婚で、意見を聞いてもらえず、子どもの代理人をつけてほしい。

など

19

19

生きづらさを抱える若者たちを支える ユースホーム事業 展示会

約10年にわたって続けてきた、家庭や学校などでしんどさを抱える子ども若者たちのための地域の居場所活動。時間の移ろいととも、課題を抱えたまま社会に出される若者世代の子たちが増えてきました。そこで2020～21年度にかけて、そんな生きづらさを抱えた若者がその当事者性を活かしたピアスタッフとして活躍し働く場を得られる「生きづらさを抱える若者たちによるアウトリーチ事業」をモデリング的事业として行いました。

その事業を引き継いで、今年度は“ユースホーム”を拠点とした「生きづらさを抱える若者たちを支えるユースホーム事業」を行いました。若者の現状に合わせて活動が選べるよう、「就労支援」「ボランティア活動」「居場所活動」の3つの柱をもとに事業を進めました。

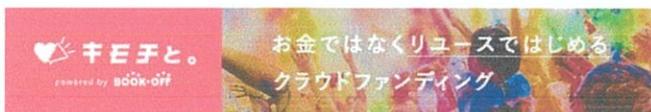
今回は展示会形式での報告ですので、センターの普段の活動からユースホーム事業で見えた若者たちの姿まで、ゆっくりとご覧いただけたらと思います。みなさまぜひご来訪ください。

●日時：2023年2月21日(火)～23日(木)
各日13:00～17:00

●場所：ギャラリーQ (大津市中央1丁目8-8 滋賀民報社屋1階)
※丸屋町商店街アーケード内にあります。
京阪びわ湖浜大津駅から徒歩6分。JR大津駅から徒歩10分。

会場で、古本・CD・ゲーム等を
回収しています！

査定額が寄付金として届く、ブックオフさんの
「キモチと。」の利用を始めました。



フードドライブも行います！

子ども若者たちの食事に使う食材や
ご家庭に配布できる食料品を
お持ちいただけたら嬉しいです。

※本イベントは新型コロナウイルス感染症対策を実施して開催いたします。
来場の状況によっては入場制限をする可能性がございます。予めご了承ください。

お問い合わせ

特定非営利活動法人
こどもソーシャルワークセンター
滋賀県大津市観音寺9-8

☎ 077-575-4378
✉ office@cswc2016.jp
HP <http://cswc2016.jp/>



素の自分で安心できる、10代のための居場所



Warm Communication Yancha Dera やんちゃ寺

無料のご飯、新しい友達！

活動パンフレット 2023

NPO 法人やんちゃ寺





「私はいていいんだ」
をつくる



活動の狙い

県職員（臨床心理士）として行政に勤めた代表すーちゃんが現場で感じた問題意識から、「やんちゃ寺」は生まれました



- やんちゃ系の不適応行動に対する社会資源の少なさ
- 罰より理解とサポートが、加害・被害の削減に効果的
- 自分を認められることで、他者を肯定できる力になる

ありのままの自分に
肯定感を感じられる
輪を作る



不登校、自殺、リストカット、オーバードーズ…
思春期年代のメンタルヘルスが日本の課題です。

学校や家庭とは違う、多様性がここにはあります。

自己否定を和らげ、
全ての経験・個性を価値に変えます。

活動内容

- 中高生（10代）が対象、参加無料
- 不適応行動がなくてもウエルカム
- 自分に対する自信を育む「第二の実家」



第1・5土曜日 14:00～16:00
第3土曜日 10:00～16:00（昼食あり）



- 参加方法：ホームページ問合せフォームから
事前連絡
- 場所：草津市草津 3-5-15 遍照寺



卓球、お菓子、ゲームなど自由に過ごす居場所です。

※大人の方はどなたであっても当日の立ち入りは出来ません。

見学・協力等については
ホームページをご覧ください。

<https://yanchadera.wixsite.com/yanchadera>



子どもたちの様子

中学校2年

【不登校で昼夜逆転 A さん】

学校に馴染めずゲーム漬けの日々。
やんちゃ寺の前日は早寝、当日は早起き。
やんちゃ寺では
家族や同世代の友達とはまた違う、
大学生のお兄さんとの
コミュニケーションが楽しい。

得意を発揮し、将来像を考える機会に。



高校3年

【留学を決めた B さん】

恋愛や人間関係に悩み、
親や友達には言えない悩みを
やんちゃ寺で打ち明けてくれた。

日本での生きづらさをバネに
自分の得意を生かし、
海外留学することを決意。



※個人が特定できないよう、複数の事例を織り交ぜています

自発性

多様性

自己実現

- 自発的な感情表現・意思表示が増えた
 - 多様な生き方のモデルを得た
- 自分の価値を発揮して生きるエネルギーが出た

やんちゃ寺の成果のワケ



● 少人数体制

一人一人とゆっくり接することが出来ます。
全員が存分に「見てもらえて」「構ってもらえ」ます。

● 土曜日だけ開催

ここで何を話しても、普段の人間関係には、何の利害関係もありません。
親や友達には言えないことも、ここでは話せます。

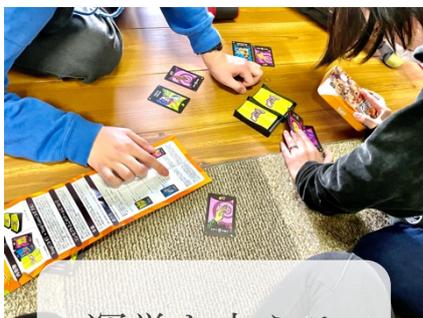
● 事前連絡制

スタッフ全員が把握して大歓迎でお迎えします。
感染対策のための体制にもなっています。

協力方法



周囲に教える



運営を支える



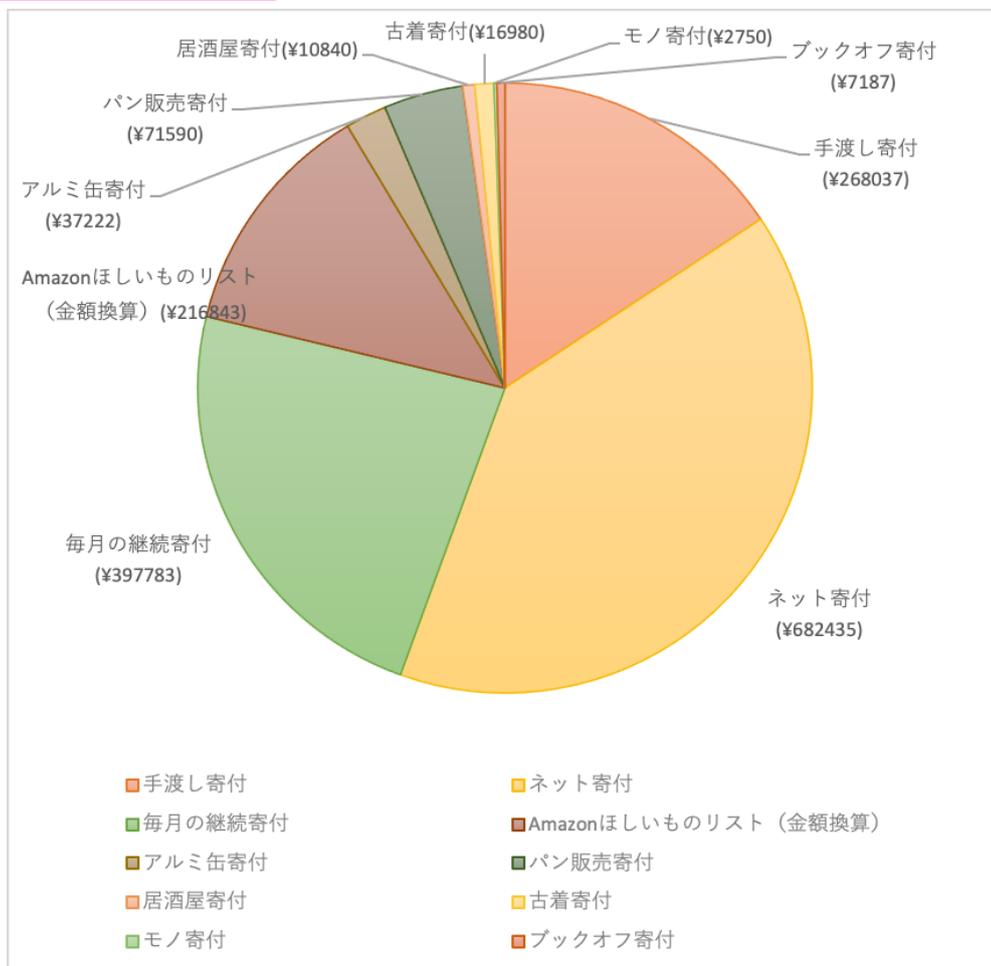
仕事を手伝う

ご家庭のアルミ缶ゴミ、古着など、
様々なカタチで応援していただけます。

詳しくはホームページをご覧ください。
<https://yanchadera.wixsite.com/yanchadera>



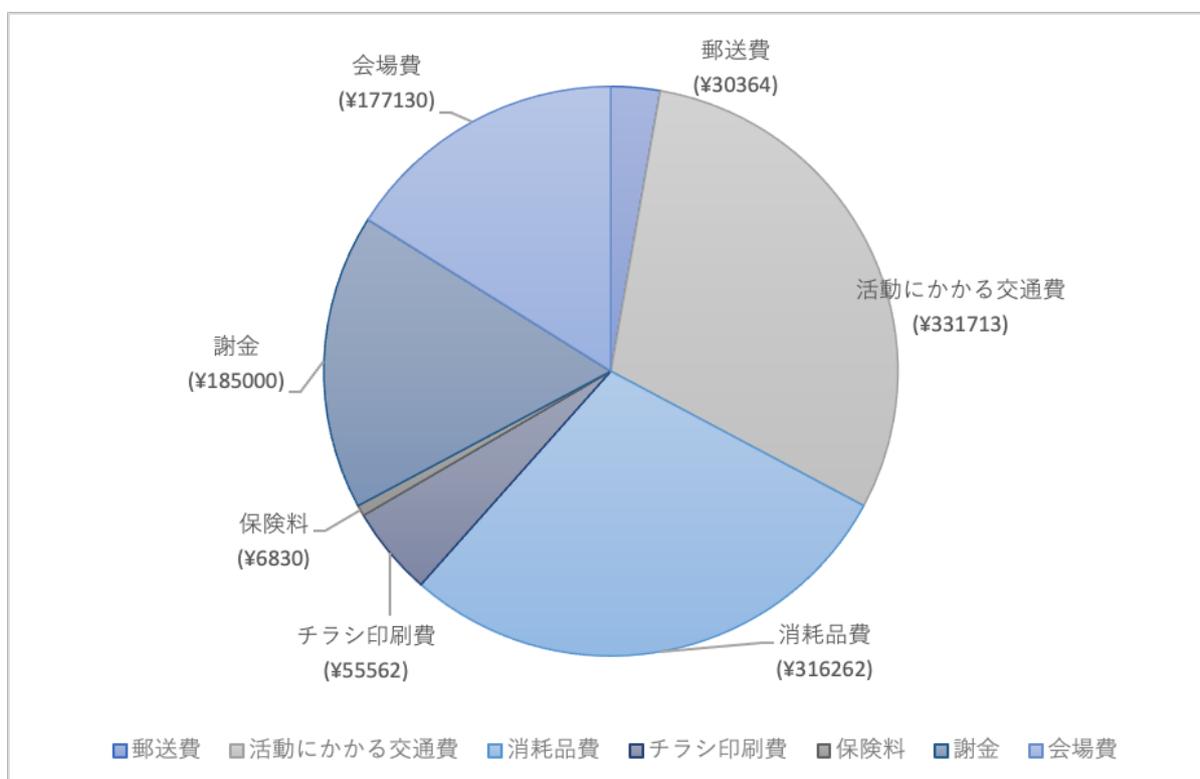
収入の種類



会計の状況

- 2022年12月現在、スタッフの持ち出しがようやくなくなってきました。
- 表に見えにくい事務備品や裏方作業（ゴミ出しや書類仕事）にかかる消耗品や交通費に、まだスタッフが身銭を切る場面があります。
- 2023年の目標は、**持続性のため**「スタッフの持ち出しをゼロに」「時間とエネルギーに対する対価（人件費）を作る」ことです。

支出の種類



大人の事情で子どもたちを裏切ることがないように
「持続可能性」を何よりも大切に考えています。

- 全科目の詳細な会計状況は、年度末（毎年3月）に県に報告しています。
- 上記は2022年12月現在の状況です。



メッセージ



代表のすーちゃんです。
私は昔、ギャルでした。

自分に自信がなくて
別人になりたいと思っていました。

そんなときに「あったらよかった」と思う場所を
作ろうと頑張っています。

ありのままの自分で
「大丈夫だ」と思える場所。

これが一つでもあれば
前を向いて、自分に期待することが出来ます。
未来に希望を持つことが出来ます。

まだまだ完ぺきからは程遠いですが
皆様のおかげで
活動は**4年目を突破**しました。

不安定な思春期に
安心できる場所が
一つでも増えるように

これからも頑張ります。
応援、本当にありがとうございます！

牛特定非営利活動法人やんちゃ寺 佐藤すみれ

問合せ

お問い合わせはホームページから
<https://yanchadera.wixsite.com/yanchadera>



事務局

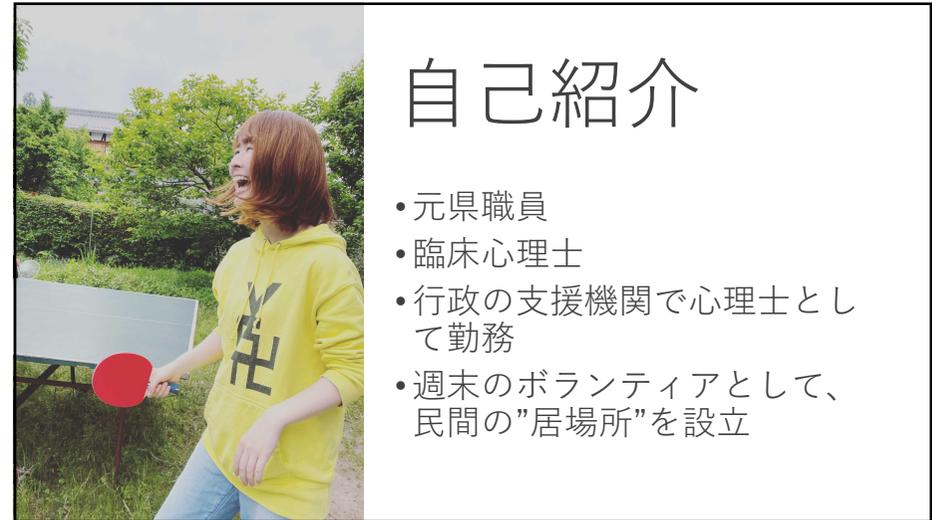




滋賀県草津市 10代の居場所 「やんちゃ寺」

代表 すーちゃん
こと 佐藤すみれ

1



自己紹介

- 元県職員
- 臨床心理士
- 行政の支援機関で心理士として勤務
- 週末のボランティアとして、民間の”居場所”を設立

2



やんちゃ寺とは

- 10代が無料で過ごせる居場所
・子ども食堂
- 「やんちゃ系」の子どもたちでも行きやすい場所
- 普段の人間関係には利害関係がない、落ち着ける場所

3



やんちゃ寺を 始めたきっかけ

- 行政だけではフォローしきれていない現実
- やんちゃ系の子どもたちの行き場のなさ
- 学校や家庭以外の「多様な価値観」が自殺を防ぐ

4

私の話を少し…

- 昔ギャルでした
- そこから臨床心理士になった経緯
- やんちゃ寺設立に至る経緯
- ギャンブル依存症と離婚
- 3年間学年トップ500点満点連続取得



5

活動報告

- 子どもたちの自発的な生きるエネルギーに：本質的な問題解決
- 弱者としてではなく「誇れる自分」へ
- デザインや見せ方、ブランディングにも注力：配布資料
- たちば (歌舞伎町での売春) などリアルに出会って声を聞く
- デンマーク、フィリピン、ドイツ、アメリカetc.日本にとどまらない若者支援視察・訪問：知識を吸収・視野を広げて活動中

6

貧困・虐待・ヤングケアラー・不登校… しんどさを抱えて生きる子どもたちのための NPO活動を応援していただけませんか？

経済的に厳しいため食事や居住環境が十分でなかったり、家庭内で虐待を受けていたり、病気や障がいをもつ親の代わりに家事や育児を担っていたり、家庭の事情や人間関係から学校に行けずにごろごろしていたり、様々なしんどさを抱えて生きる子どもたちが地域にたくさんいます。そしてそうした子どもや家庭を支える制度はありながらも、支援からこぼれ落ちてしまう子どもがいるのが現状です。私たちはそんな子どもたちが、日頃のしんどさを忘れて子どもらしく楽しく過ごせる居場所活動を行っています。小さな民間団体のため、活動は地域のみなさまのご支援で成り立っています。

安心安全に過ごせる
家でも学校でもない地域の居場所

子どもたちはボランティアと一緒に過ごします
センターに来たらひとりぼっちにはなりません



日頃のしんどさを忘れて
普段できない体験をする特別企画

長期休み、家にいてしんどい子の
レスパイトとしてお泊まり活動を行います



家庭では難しい
お出かけなど
経験の場にも

NHKで紹介
された動画も
ご覧ください



ゲームしたり、おしゃべりしたり。
ご飯にお風呂もみんなでわいわい。



食品・お菓子

お腹を空かせてやってくる
子どもに提供したり
家庭に配ったりします

QUOカード

不便な場所から通う子や
夜の居場所終わりの送迎、
家庭への配食のための
ガソリン代に使用します

衣服

(新品に近い物)

冬でも薄手の服の子、
下着の替えがない子が
多いです

切手・ 書き損じはがき

応援してくださる皆様への
報告書やお知らせの
発送代にあてます

寄付税制優遇あり
クレジットカード可

クラウド
ファンディング
実施中↓



などでご支援いただければ幸いです。

お問合せ

特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター
滋賀県大津市観音寺9-8
<http://cswc2016.jp/>

☎ 077-575-4378 (13~20時)
Mail cswcoffice@cswc2016.jp
Twitter @cswc2016

◆◆◆ 特定非営利活動法人 こどもソーシャルワークセンター ◆◆◆

～ 2022年度 会員・ボランティア等登録用紙 ～

申込日： 年 月 日

専用フォームから登録いただけます。

右のQRコードを読み込んでいただき、登録をお願いいたします。



用紙での登録は、下記①～③のご協力いただける項目に☑をお願いいたします。（複数選択可）

① 会員登録・・・「今年度分の入会を申し込みます。」

【（ ）の中に○をお付けください。】

（ ）	正会員	10,000円/年
（ ）	個人賛助会員	5,000円/年 × （ ） ☐
（ ）	団体賛助会員	10,000円/年 × （ ） ☐

② ボランティア登録・・・「ボランティア活動を希望します。」

（ご希望の方には、詳細を説明させていただきます。）

【（ ）の中に○をお付けください。】

（ ）	活動サポートボランティア	こどもたちの見守りをお願いします。
（ ）	調理ボランティア	こどもたちにおいしい食事を。
（ ）	事務サポートボランティア	団体事務として運営にご協力を。

③ 寄付（協賛）金・物品提供・・・「寄付でセンターの活動を応援します。」

【（ ）の中に○をお付けください。】

（ ）	寄付金	寄付金額 円
（ ）	物品提供 【一例】 切手、書き損じハガキ、封筒 便せん、シャンプー、リンス 洗剤、おやつ、食材等	随時「amazon欲しいものリスト」 に必要なものを掲載しています。 右のURL、もしくは団体 ホームページを ご確認ください。

昨年度と同じ住所・電話番号・メールアドレスで登録情報を更新する。

お名前（団体名）：

ご住所：

お電話： — — メールアドレス：

※ ご記入いただきました個人情報、活動報告、案内のみの目的で使用いたします。

※ この用紙は2022年度の登録用紙になります。来年度、更新をお願いいたします。

子どもたちの風景 湖国の居場所から

子どもソーシャルワークセンター 理事長 幸重忠孝

① ヤングケアラーのミカ

「お姉ちゃん、早く買い物行ってきてよ。私が洗濯して行かないやん」

二つ年下の妹のマホが口をたがらせている。家の洗濯機が動いていた時は良かったけど、半年前に壊れてからは、家から離れたコインランドリーにきょうだい二人とお母さんの洗濯物を洗いに行っている。洗濯係はマホの仕事だ。

うさぎにある自転車は一台だから、洗濯と買い物はマホが交代で行く。

出来れば私も学校みんなが下校する前に買い物を持参しておきたい。でもボランティアの仕事に

行ったお母さんが帰ってこない。下の赤きょうだいを置いて買い物に行かない。

今年も高校受験だけど、中学校も併せて行けてない私ばかりで高校に行かずに下の子の面倒を見ないといけないやんやうな。

お母さんも私を産んだのは17歳の時、高校は妊娠して辞めたって言った。高校なんか出なくて何とかなるって言ってたし、それにたまに来るおほおちゃんも言っていた。

「おほおちゃんが子どもの頃は学校に行かずに畑仕事を手伝ったり、家のことを下の子の面倒を見てた



ボランティアといっしょにギョーザづくりも楽しい(子どもソーシャルワークセンター)



ゆきしげ・ただが、岡山県出身。児童養護施設で育ち、京都府立総合福祉士専門学校を卒業。山形県に引っ越してからは、(公財)NPO法人「いっしょにソーシャルワークセンター」を開設した。大学を専門学校などで児童福祉を教習している。

相談窓口だけでは不十分

んやから、あんたが今していることは何でもやったら当たり前のことなや。今の予備校も今は本気でせいけんやで」

家のことをしなくていい同級生たちが、今日も学校で勉強が嫌やとか先生や友達を嫌やとか言ってる。苦勞しているのを思ったら、学校に行かなくてもいいって言ってくれているうちの方がましなのかもしれん。でも最近、そんな気持ち

が少し揺らいできている。

3カ月前から週に一回、子どもソーシャルワークセンターとかいうところに行きはじめたからかな。

学校に来ているスクールソーシャルワーカーが、あんなに今していることを行っていないか、って声をかけてくれた。

月曜日がお昼の部の「ぼんち」の「む」、木曜日が夜の部「トワイライトスナイ」。勉強するのはな

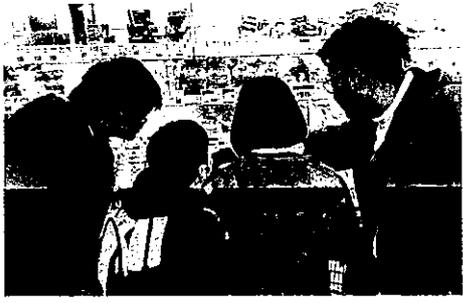
って思ってた行ってみたら、普通の一軒家で、何でも好きなことをしていいって言われてびっくり。私にどっか唯一の息抜きを深夜にメの話をしたり、みんな毎回アニメ鑑賞会をするってことにな

た。

よく来てくれるボランティアのお姉さんが、美大に通っていてめちゃめちゃイラストがうまい。先月からペンタブレットでCGを教

えてくれるようになった。だから高校には特に行きたくないけど、アニメ系の専門学校が美大生になつてみたいかもって最近は思っている。

「おほおちゃんもボランティアのお姉さんが作りに来てくれてこの前は一緒にギョーザを作った。あのギョーザつくりは本当に楽しかった。おじいちゃんを食べながら、気がついたらいっつも家や学校の悩みを話しているけど、それをみんなニコニコしながら聞いてくれる。なんか週に1、2回そんな日があるだけで気持ちも軽くなるって思っているのが自分でもわかる。



この前のトワイライトスナイで一緒に過ごしている中学生の男子がこんなことを話した。

いつもメンタルやられてはお母さんが泣きながら「死にたい」「私は病気で大変なんだ」ばかり言ってきて、仕方なくいつも話を聞いて正直うんざりしているけど、「こはボクの話をみんなが聞いてくれる。学校で友達と遊んでいて、なんか気がついていたらまわりから浮いちゃってさ。」「こは自分が好き勝手に遊んでいいから楽しんで、家や学校の嫌なことを忘れる。」

その気持ちすごくわかる、私も指を折って次に参加する日を楽しみに毎日乗り越えているから、行くところが一つ出来たことで少しだけ楽だと年々るのが楽になつたような気がする。

◇ ◇ ◇

ミカのような子どもたちはヤングケアラーと呼ばれ、現代の子どもを取り巻く社会課題の一つとして注目されている。

ヤングケアラーとは家で本来大人がすべきことを背負わされている子どもたちのことで、国の実態調査ではクラスに1、2人いることがわかっている。滋賀県でも昨年度、実態調査が行われたが県内では90人はいらぬという曖昧な調査結果に終わってしまった。なぜそのような曖昧な結果に終わったのか、それはミカのように子ども自身もヤングケアラーであることを自覚していないからだ。そしてそれをまわりの大人たちが気がついていないからでもある。

国も県も調査を受けてヤングケアラーの支援に乗り出してきているが、ヤングケアラーであることに子ども自身もまわりの大人も無自覚である中で、相談窓口を作るだけでは子どもたちは救われない。

では何がヤングケアラーの子どもたちに効果的なのか。それは今回のミカの物語で出てきたような小さな子どもたちの居場所である。この連載では、子どもたちの視点で子どもの居場所がなぜ社会に必要なのかを伝えていく。

(なおこの子どもたちの話はこちらもソーシャルワークセンターを利用する複数のケースを再構築して作り上げた話であり、写真と本文の子どもたちは関係ありません)

◇ ◇ ◇

お母さんの実母田村が生活保護費を抱えていると聞かされた。そのうちには子どもたちも寄り添って居場所を提供している幸重忠孝さんに、子どもたちを取り巻く風景から見える地域や社会の課題をいっしょに考えてみます。次回から毎週第3月曜日に掲載します。

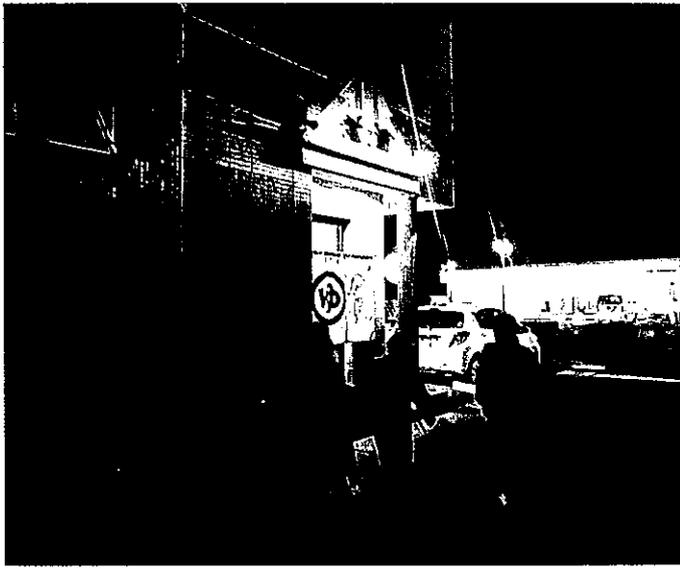
こどもたちの風景 湖国の居場所から

こどもソーシャルワークセンター理事長 幸重忠孝

②夏休み前のマホ

「お姉ちゃん、早く買い物行ってきてよ。私が洗濯しに行けないやん」
私が文句言っても、ミカねえからは返事がない。スマホで動画見ているところを声をかけたからか、「うるさいな」という顔でにらめつけてくるだけ。

私(二つだけ)が年齢が変わらないくせにいつも偉そう。来週か、毎日中学校へ行っている。と言っても私も教室に入れなくてオアシスルームで過ごしているけど、でも先月からオアシス仲間になったり、先週と仲良くなったので、最近オアシスルームが楽しくなってきた。このタイミングで地獄の夏休み。先輩は家族と旅行に行ったり、田舎のおじいちゃんおばあちゃんのごとくに泊まりに行ったりと忙しそう。私の夏休みの楽しみはミカねえが寝てる時に使わせてもらえるスマホから



センターに来る子どもたちにとって、スタッフらと銭湯に行くのも大切なひとときだ(大津市内)



ゆきしげ・ただたか 岡山県出身。児童養護施設職員などを経て幸重社会福祉士事務所を設立。山科区藤原で育つ。京都府を経てNPO法人「こどもソーシャルワークセンター」を開設した。龍谷大学非常勤講師として社会福祉を教えている。

家庭で出来ない体験を

あ、でも今年の夏休みはこどもソーシャルワークセンターに行く日があるからまだマシかも。それに夏休みは特別企画があるってこの前言ったな。

先週のトワイライトの時に、お客様に見せる写真のパネルが飾ってあって、そこに去年の夏休みの写真があったから、スタッフさんに聞いてみると、なんと長期休みは特別企画で旅行に行けるみたい。でも今年の夏はセンターにお金がないから、お泊まり会しか出来ないはずだったんだけど、地域のロータリークラブさんが夏休みにセンターの子どもたちが楽しみにしている出かけるようにと寄付があったというので、今年も旅行に行けることになったんだって。楽しい旅行があると思うだけで夏休みが俄然楽しみになってきたよ。



夏休みの川遊び。居場所には家庭で出来ない体験を提供する役割もある

(いずれも幸重さん提供)

小学校の時、夏休みが終わると宿題を書くことが過ぎて、結局いつも宿題を出さずに先生に怒られてた。二期期に入って教室の後ろに飾られる家族との旅行についての絵日記や夏休み新聞、親と一緒に料理した調理実習レポートや工作。ただただみんなのことがうらやましかった。

でも今年の夏はきつと違う。センターで行く旅行にはおみやげ代も出さなくていい。ノリ先輩に何のおみやげ買って帰ろうか。コロナのせいで小学校の修学旅行も県内日帰り旅行になったから、もし今回の旅行で滋賀県以外のところに行ったら人生初の県外旅行。こんな楽しい夏休みも人生初だよ。生きていたらいいことあるって本当なんだね。

マホのように、自分の家庭に子どもを抱える子どもにとって、夏休みは重要な一ヶ月になることばかり知りたていない。

特にひとり親や非正規雇用の保護者は、夏休みといえども休むことなく働いているので、子どもたちと共に家族で楽しい旅行も出来ない。また家族旅行にはお金と時間が必要となるため、その片方が欠けるだけでも家族旅行は困難となる。そして夏休みの宿題で家庭教育を問われるものがあまりに多

いことも知られていない。スクールソーシャルワーカーとして二期期の最初に小学校を訪問した時に、教室の後ろに飾られている夏休みの課題を見て、いつもマホのような子どもが浮かび、心が痛む。

だからこそ夏休みに家庭で出来ない体験を、地域の居場所ですべてに提供するのは大きな課題。このような体験活動の提供も子ども達の居場所の役割として大きな意味を持っているが、今回のマホの話をあつたように、寄付などの地域の支援がなければ子どもたちに特別な活動を提供することは難しいという課題もある。

こどもソーシャルワークセンターでは今年の夏から新たにヤングケアラーの子ども若者を対象とした居場所づくりや体験活動がはじまる。一人でも多くのマホのような子どもに夏休みの楽しい思い出や居場所を提供していきたいと考えている。

(なおこの子どもたちの話はこどもソーシャルワークセンターを利用する複数のケースを再構築した話であり、写真と本文の子どもたちは関係ありません)

皆さまの理由から生きづらさを抱える子どもたちがいます。そうした子どもたちに寄り添い、「居場所」を提供し続けていく幸重忠孝さんに、子どもたちを取り巻く風景から見えてくる地域や社会の課題をつづつてもうります。 毎月第3日曜日に掲載します

こどもたちの風景 湖国の居場所から

こどもソーシャルワークセンター理事長 幸重忠孝

③ 母を避けるナオ

やっとお盆が終わった。地獄の夏休みもあと少し。家にいる時間が増えようという時期も早くも訪れていよいよお盆の準備が目に入ってくる。だから家の中はなごみやお母さんとお顔を合わせないようにしているけど、冷蔵庫のお茶を飲みに行くと、トイレに行く時にビールの空き缶に顔を埋めて泣いているお母さんの姿が目に入り、ライラする。

今年のお盆も「コロナで帰られなくなった」と海外で働くお父さんがお盆を過ごすことが出来ず、この家から逃げることが出来ず、い



こどもソーシャルワークセンターのキャンプ。子どもたちが家庭の事情を忘れて過ごせる時間だ(写真はいずれも同センターの提供)



ゆきしげ・ただなか 岡山県出身。児童養護施設職員などを経て、児童社会福祉士事務所を設立。山形県こどものひろば(宮崎市)を経て、NPO法人「こどもソーシャルワークセンター」を開設した。慶応大学非常勤講師として社会福祉を教える。

んは帰ってこなかった。ボクが中学生になってから一度もお父さんは帰国していない。お母さんがこんなにお酒を飲むようになったのは、全とお父さんの浮気が原因だから許せないと言っているけど、ボクに言われたらお母さんが心の病気になるって「死にたい」と毎日泣き出してから。きつとお父さんは仕事に逃げて家に帰らなくなっただけ。大人はお酒や仕事に逃げやすい。中学生のボクだけがこの家から逃げることが出来ず、い

支援体制強化へ合宿学習

そんななか、学校以外に小さな逃げ場が出来た。こどもソーシャルワークセンターの夜の居場所「フライングナイト」。お母さんが起した何度目かの自殺未遂の後、市役所の人が毎週木曜日の夜を過ごす場として紹介してくれました。夕食付きで大学生が無料で勉強をみくれるって話で、最初は学校の課題を真面目に持って行ってたけど、ミカって言う、よその中学校の子が来るようになってからは、センターにいる時間は家の愚痴大会で勉強はほとんどしなくなった。まあ勉強は学校で頑張っているからええよな。

場所活動では、今回のような子ども自身が自分の家庭に向き合わなければならぬ学習会をもつことはほとんどのない。それは日曜日の居場所での短い時間において、学習時間「よりも」「しなごきを抱える家や学校を離れてホッと出来る時間」を楽しむことをして、い現実を忘れる時間」に置きを置いているからだ。

しかし合宿という長い時間を仲間たちや地域のボランティアと生活を共に過ごし、今回のように開放的なプログラムを行うことで、きつかけを与えるための「学習」をする余地が生まれてくる。実際の合宿でも物議のような学習会の後、若者たちは寝る間を惜しんで朝の3時や5時ごろまで起きておしゃべりしていた。

お盆前「ケアナビわきゃん」という泊まりの合宿があった。他の曜日センターへ来ている中高校生とか大学生の人たちやセンターと同じようなところに来ている高校生と一緒に近江舞子の民宿で過ごした一夜は、お母さんのことを忘れることが出来た貴重な時間だった。

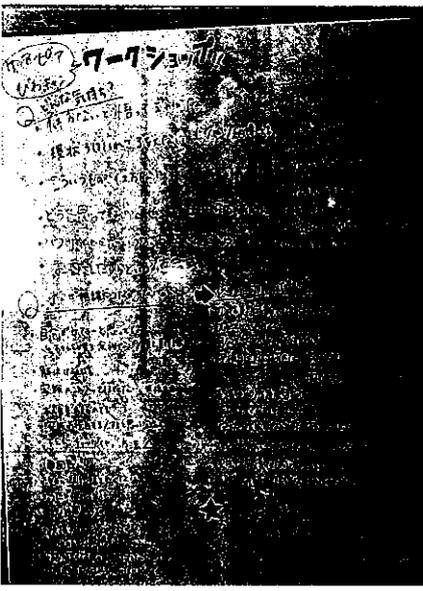
そんな楽しかった合宿だったけど、夜の時間にした学習会のこと、急な母親が病気になるって噂をきいたり、親の代わりに家事や親の介護や看病をしている高校生が出てくる動画を見せられた。うちの

滋賀県ではこの夏から「ヤングケアラー支援体制強化事業」がはじまった。こどもソーシャルワークセンターでも、滋賀県と共同になりこの事業をすすめており、ヤングケアラーの子どもたちにとってのキックオフ活動として、今回オナが語ったヤングケアラーの若者たち向けの合宿を行った。

滋賀県以外の自治体からヤングケアラー支援についての問い合わせがくる。相談窓口を開設したが子ども自身からの相談が来ない。オンラインサロンを開設して入室用のQRコードの入ったカードを子ども全員に配ったけど誰も入室してこなかった。

そんな問い合わせに質問を返す「ヤングケアラーの子どもにもなせ聞かないですか」と。

(なおこの子どもたちの話ほど、こどもソーシャルワークセンターを利用する複数のケースを再構築して作り上げた話であり、写真と本文の子どもたちは関係ありません)



キャンピングは学習会も開かれた。



キャンピングの石窯で焼いたピザは最高だった

たまごのまな理由から生きたらを抱える子どもたちがいます。そうした子どもたちに寄り添い「居場所」を提供し続けている幸重忠孝さんに、子どもたちを取り巻く風景から見える地域や社会の課題について伺います。

――毎月第3月曜日に掲載します

こどもたちの風景 湖国の居場所から

こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重忠幸

④ 学校へ行けなくなったナオ

「なんで友だちのひびきを聞いたのー暴力は犯罪なのよ。わかってるのー」

お母さんが朝から怒鳴っている。この後、大量のお酒を飲んで泣きながら寝てしまった。

なんであいつを殴ったのか？ 自分でも何でそんなことをしたのかよくわからない。何であの時、涙が流れなかったのだろう。酒飲みのお母さんの目は大嫌いのほ

「ナオのおかん、やばいねん」



センターではこどもたちがスタッフと一緒に体操や運動もする(センターのテラス)



ゆきしげ・ただたか 岡山県出身。児童養護施設職員を経て、児童福祉士事務所を設立。山科養護施設(山科)を経て、NPO法人「こどもソーシャルワークセンター」を開設。大学や専門学校などで児童福祉を教えている。

原因探らず 楽しい時間を

毎日おうちの店でお酒買いにきてるんやけど、この前手伝いでレシに入ってた。すごい量の酒買ってた。しかもお金払う時なんか手が震えて。何度もお金落としてんねんか。あれは相当やばいわ。数人の笑い声。

次の時間は理科筆算の試験。トモヤは実験中にわざと手を震わせて実験道具を何度も何度も床に落とした。まわりのうちもニヤニヤしながらボクを見ていた。

そして五回目トモヤがわざと道具を落とした音は、ボクに殴られたトモヤが席から落ちた純い音が理科室に響いた。

先生たちから殴りかかった理由を何度も聞かれた。トモヤの家から検査局が出た。警察の事情聴取もあると聞かれた。「理由はなです。あいつが何度も実験道具をおとすのがうざくてムラムラしたから」

あれからボクは学校に行つてない。学校に行つてないけど、一学期から行きはじめていた「マヤもソーシャルワークセンター」の夜の居場所「トワイライトスタンプ」には、毎週末に通っている。

ここには同じ学校のやつらはいないからいつもの自分だけじゃある。いつも家のことを愚痴っているミカに、実は最近学校を休んでることを話したら、さっそくセンターのスタッフにお母の部も参加できるよりに交渉してくれた。「ナオが一学期になって学校休んでるんやって。昼のほつとるーむにきてもういっしょやろ」と。

学校のおうちの顔を言えんもなげけど、家で酒臭いお母さんと一緒にいるのも同じくうざいし、なかつたので、お母もてで過せる日が出来たのは正直助かってる。



「おひげ屋敷」の練習も始まっている

ようやく授業がない日だからって言った。あと、びっくりにしたのが、ほつとるーむに来ている日は中学校への出席扱いになるの。センターのスタッフの人が説明してくれた。さっそくびっくりにしたのがいつも来てくれているお母さんのお兄さん。高校に通ってなかったっついで。

「高校行かなくても大学って行けるの？」うん。高校認定試験に通れば大学の受験出来るし、ボクもそのパターンだったから。そんなことを学校では教えてくれなかった。って、そりゃそうか。

「ロク禍になってから、全国的に子ども不登校が急増している。特に滋賀県は不登校の割合が多い県でありながら、不登校の子どもたちが学校以外で日中を過ごすことの出来る場、笑える場が圧倒的に少ない。」

2017年に試みされた「教育機転確保法」によって、学校復帰を大前提としていた従来の不登校対策が転換され、学校外での「ま

よう授業がない日だからって言った。あと、びっくりにしたのが、ほつとるーむに来ている日は中学校への出席扱いになるの。センターのスタッフの人が説明してくれた。さっそくびっくりにしたのがいつも来てくれているお母さんのお兄さん。高校に通ってなかったっついで。

「不登校の理由をまわりの大人が決めることは簡単である。『母親がアルコール依存症だから』『暴力事件を起こして気分がすくなくなったから』『美はいじめがあったから』

子どもたちは理由をうまく説明出来ないこともあれば、大人に話したくないことももある。何も聞かずに共に楽しい時間を過ごす、そんな居場所をもっと増やして欲しい。ナオのような不登校の子と私たちと関わりながら日々感じている。



子どもたちの手作りのパーティも

(なおこの子どもたちの話ではなく、こどもソーシャルワークセンターを利用する複数のケースを再構築して作り上げた話であり、写真と本文の子どもたちは関係ありません) ◆ ◆ ◆ 改善の手順理由から生活習慣を伝えるまでまだまだあります。そうした子どもたちに寄り添い、「居場所」を提供し続けている幸重忠幸さんに、子どもたちを取り巻く風景から見える地域や社会の課題をついついてもらいます。 毎月第1月曜日に掲載します

こどもたちの風景 湖国の居場所から

こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重忠孝

⑤ 家に逃げ場のないマホ

「ちょっと散歩していい」
今日もミカねえとケンカになっ

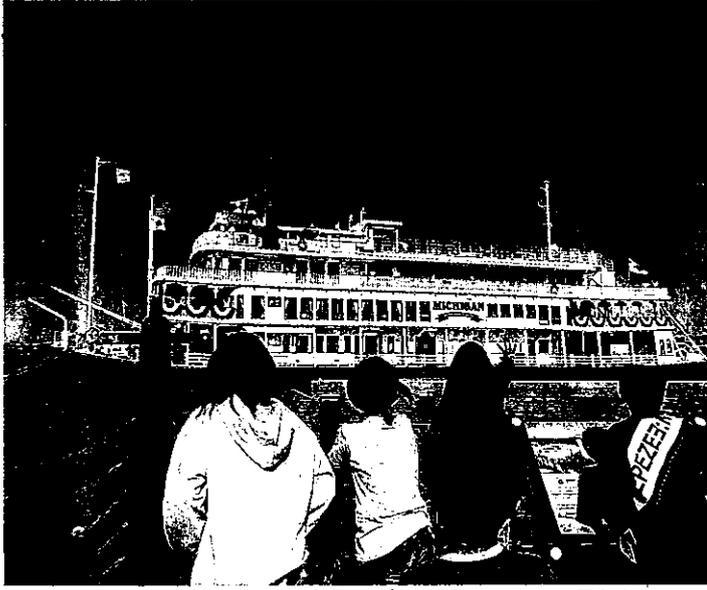
た。あいつはママがつかう。うち
の家は、部屋が二つしかないの
きょうだい六人とお母さんの七人
で暮らしているから、ケンカにな
ったら難題だ。ななだけあいつの
顔を罵るんじゃないから、私は完全
登校のミカねえと通って、学校に
は行くようにしている。

「言っても私も教室に入れない
からオアシスルームにいるけど
ね。あ、毎日学校に行くのは、今
日分ほぐすまで、目の前に湖
湖。イライラすると私は、湖
のほとりまで一歩も歩かないだ。
さうきまごいイライラが身体中に
あついたら、お母さんやミカねえの怒鳴り声も
聞こえてない。一番下の赤
ちゃんの泣き声も聞こえない。ただ
それだけで、心が落ちてきてくる
のがわかるよ。」

給食があるからという日は秘密だ
よ。



ゆきしげ・ただたか 岡山県出身。児童養護施設
員を経て幸重社会福祉士事務所を設立。山形県
こどもひろば(京都府)を経てNPO法人こども
ソーシャルワークセンターを開設した。大学も専門
学校などで児童福祉や社会福祉を教えている。



来月、招待してもらおうミシガンに手を振るセンターの子たち

夜の居場所 地域に支えられ

は夕方から一度のお集まりの
トワイライトステイの夜。あの
苦しい家を離れて、ボランティヤ
のお姉さんと、夜の時間をゆっ
り過ごすの出来る大事な日。
トワイライトステイって、こども
ソーシャルワークセンターとい
うところまでやっている夜の居場所
のことだよ。そこはボランティヤ
のお姉さんとおじちゃんに
食えて、銭湯に行くと、とにかく
楽しんでおもしろいんだよ。

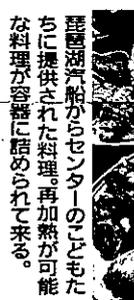
「えー、なんなん今日の晩飯。
高級レストランやん」
今日のトワイライトステイの夕
食は、ネットの動画で紹介され
ているホテルのバイキングとかに出
てきそうなおかずが並んでい
た。(お母さんはそんなところに行
ったことはないけど)。

「ま一生あいつは顔あわさん。と
言いたいけど、トワイライトから
帰ったらミカねえと一緒に布団に
寝るしかない。さすがに寒くなっ
てきたから、布団ははきついで
な。」

「えー、なんなん今日の晩飯。
高級レストランやん」
今日のトワイライトステイの夕
食は、ネットの動画で紹介され
ているホテルのバイキングとかに出
てきそうなおかずが並んでい
た。(お母さんはそんなところに行
ったことはないけど)。



ご近所の方から差し入れを受けたイチゴ。地域の人たちにも支えられている。



言語通訳船からセンターのこどもたちへ提供された料理。再加熱が可能で料理が容器に詰められている。

こどもたちの風景 湖国の居場所から

こどもソーシャルワークセンター理事長 幸重忠孝

⑥ スマホが使えなくなるミカ

【ミカのつぶやき】

また妹のマホが私のスマホを勝手に使ったので、思わずひっぱいたら涙目になって外へ出て行った。妹のマホは中学に入ってから私のスマホを勝手に勝手に使った。あいつにはこのスマホを使う権利はない。

このスマホは、年に数回会うお父さんに去年買ってもらったものだ。スマホが欲しいと言ったら、「ミカが、ちゃんと大人になってるか確認したら買ってやる」と言われて、車の中で胸を触られ買



一日を振り返り話し合うセンターのボランティアスタッフたち (大津市・こどもソーシャルワークセンター)



ゆきしげ、ただが、岡山県出身。児童養護施設職員などを経て、児童社会福祉士事務所を設立。山形県こどもひろば(京都府)を経てNPO法人「こどもソーシャルワークセンター」を開設した。大学や専門学校などで児童福祉や社会福祉を教えている。

大人が連携 安心・安全守れ

除してもらったために、私の身体が成長したかどうかの確認を行う。そうやって使っているこのスマホを、何もしないまま勝手に使ってしまうのは本当に許せない。

「このスマホは誰にも話さない」とお父さんに言われているけど、木曜日に毎週行っているこどもソーシャルワークセンターの夜の居場所「トワイライトステイ」でこの前ボランティアのお姉さんと銭湯に行った時に、スマホをロックされて、解除してもらったのが大変で感傷をホロッとしゃべってしまいました。

いつもニコニコしながら話を聞いてくれるお姉さんの顔色が変わったのに気づいて、すぐに話題を変えたいと気づかれてしまったかも。

【ボランティアスタッフの告白】こどもソーシャルワークセンターでは、トワイライトステイが終わったらボランティアみんなが職員の人たちと今日の活動の振り返りする。

私が銭湯でミカちゃんから聞いた話をした時に、別のボランティアアからも「この前、スマホで写真撮った時に、女豹ボースやM字脚とか言いながらボシングをしてておかしいなと思った」という話が出てきたので、職員さんがあ



スタッフたちが見守る中でスマホを使う子ども

わてでセンターの代表の人を呼びに行った。

その後は個別に代表の人に話を聞かれた後に、今日の話は絶対に他のボランティアに話さないようにと言われた。そしてミカちゃん

今月は子どもの虐待防止推進月間。そのため啓発のシンボルである「オレンジリボン」や「189」といった虐待の緊急ダイヤルをまちで目にするが増えているが、子どもたちが自ら児童相談所に助けを求めることは滋賀県の最新のデータでも年間10件ちょっとしかない。まして今回のミカのように性的虐待となるとほぼ皆無となる。

こどもソーシャルワークセンターでの子どもの居場所活動で、地域のボランティアと子どもたちがリラックスして過ごしているところ。このような「虐待」や「いじめ」など命に関わる重大なことに苦しんでいることを子どもたちがふっとなほすことがあったり、関わっているボランティアや職員が発見することがある。

こどもソーシャルワークセンターの職員半数は社会福祉士などのソーシャルワーカーであることから、必要に応じて福祉や教育機関、時に警察などと連携して対応

にあたることもある。

子どもにとって、こどもソーシャルワークセンターは地域の身近な居場所であり、その居場所子どもたちと関わる地域のボランティアにとり、専門家であるソーシャルワーカーが居場所に常駐していることは、今回のように専門的な動きをしないといけない時に力を発揮する。

楽しい活動やおいしいご飯を提供することは地域の人の役割、専門的な関係機関との連携などは職員役と子どもにも関わって大人が面輪となって子どもたちの安全と安心を守っていることが、こどもソーシャルワークセンターの強みであり、今後このようなタイプの居場所が、もっとも地域や子どもたちに必要になってきています。そうしたことを、ミカのような子どもと出会うたびに強く感じている。

6月より6回に渡って連載してきた子どもの居場所に通うミカ、マホ、ナオの3人の中学生を主人公とした話は今回で一区切り。次回よりまた違う主人公たちで子どもの居場所の物語をみなさんに伝えていきます。

(なおこの子どもたちの話はこどもソーシャルワークセンターを利用する複数のケースを再構築して作り上げた話であり、写真と本文の子どもたちは関係ありません)

さまざま理由から生きづらさを抱える子どもたちがいます。そうした子どもたちに寄り添い「居場所」を提供し続けている幸重忠孝さんに、子どもたちを取り巻く風景から見える地域や社会の課題をつづってもらいます。

次回回は12月20日に掲載予定です

2 生きづらさを抱える若者たちの変化について

■ みくさんのケース

みくさんの抱える生きづらさ

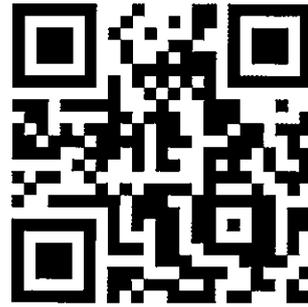
ひとり親

家出

一時保護所

高校中退

生活困窮



ピア相談員みくの物語動画

本事業参加前の状況

高校を中退したみくさんは、知り合った男性のもとで生活することで実家を出ることになります。会社員の男性のもとで家事手伝いをしながら生活をしていましたが、その共同生活の場へ男性の知り合いで、家をなくした新たな別の男性と一緒に過ごすことになったり、職場でコロナ感染者が出たことによって会社員の男性がテレワークになったことから、共同生活が息苦しくなり、再び家出生活に。本事業で安全なところで夜を明かせること、また所持金がなくなっていく中で収入が必要であったことから、深夜のネットアウトリーチ・オンラインサロンのピア相談員となります。

本事業での様子

深夜のネットアウトリーチ・オンラインサロンでは、主に自分と似た境遇で家出をしたいと考えている子どもや家出をしている子ども若者にアプローチすることが多くありました。活動を重ねる中で、リアルタイムなやりとりを必要とする SNS よりも、自分自身も家出経験をしている中で使いこなしていた「Yahoo 知恵袋」でゆっくり長文で返していくやりとりを好んで使っていました。また性被害に苦しむ子どもたちを見つけ出して、約1年間のピア相談員の活動中に二回も性被害を受けていた子どもを救うきっかけを作ってくれました。また地域サロンへのアウトリーチ活動にも積極的に参加し、年配のスタッフから声をかけてもらう機会もたくさん持てました。

日頃の勤務中はリラックスして取り組んでおり、現在の自身の生活相談や悩みについてもソーシャルワーカーに熱心に話す時間を設けることも多く、この活動を通して自身の課題と向き合う時間も多くみられました。

本事業を終えて

現在は、他団体のサポートを受けながら住まいを確保し、高校卒業認定の取得のため勉学に励むほか、いくつかが自分が過ごしやすい地域の居場所も見つけて、そこでもピアスタッフとして活躍しています。就職に向けても動いていますが、できれば事業終了後、この事業を引き継いだ新たな事業で引き続き力をつけてもらえればと関わってきたソーシャルワーカーは考えています。

■ かなえさんのケース

かなえさんの抱える生きづらさ

ひとり親

ヤングケアラー

不登校

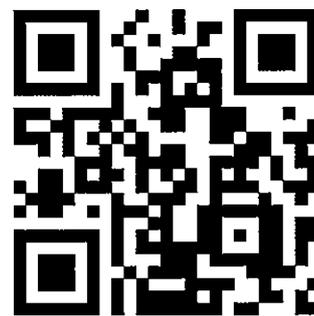
いじめ

一時保護所

大学中退

生活困窮

DV



ピア相談員かなえの物語動画

本事業参加前の状況

大学を休学した後に転部して気分を切り替えて復学したものの結局、中退することになってしまったかなえさんは、生活と奨学金の返済のためにいくつものバイトをかけもちしながら生活していました。しかし、その生活に疲れ気分が落ち込みがちになる中ですべてのバイトをやめて休養することにしました。ちょうどその頃に高校時代からつながりのあったこどもソーシャルワークセンターに顔を出してきてくれたことがきっかけで、深夜のネットアウトリーチ・オンラインサロンのピア相談員となります。

本事業での様子

ちょうど深夜のオンライン活動が始まったばかりの時期からピア相談員になってくれたことから、最初はネット上でいかにしんどさを抱えている子どもたちを見つけていくのか、またピア相談員自身がネット上で困りごとをつぶやくとどのような反応が見られるのかなど実験的な取り組みにソーシャルワーカーと共に試行錯誤を重ねてくれました。活動も二年目に入って行く中で、トーク系アプリを中心に、しんどさを抱えている子どもたちと明け方までおしゃべりをしてくれる姿をよく見かけました。

一方で自身の生活もこのピア相談員として活動している間に目まぐるしく変わっていきました。当初は遅刻をすることや当日に欠席をすることも多かったのですが、同棲していたDV彼氏との生活を解消すると共に福祉の支援を受けながらの生活が始まったあたりから生活が安定しはじめました。メンタルケアをきちんと受け、それによって大学中退した後の自分の生活を考える余裕ができてきたことが、活動中のソーシャルワーカーとの相談の中で見えてきました。

本事業を終えて

年度途中ではありましたが、新しい生活が滋賀から通うには遠いところではじまったことから、ピア相談員の活動について彼女の中で一つの役割を終えて、無事に終了することになりました。かなえさんにとってはこの活動は就労体験よりも生活相談の場として大きな意味があったように活動を支えてきたソーシャルワーカーは考えています。

2 生きづらさを抱える若者たちの変化について

■まきさんのケース

まきさんの抱える生きづらさ

不登校

ひきこもり

対人不安

社会体験不足

生活困窮



ピア相談員まきの物語動画

本事業参加前の状況

初年度、高校内居場所カフェでのアウトリーチ活動を行っていたピアスタッフが家庭の事情で二年目は参加できなくなったことから、新たなピアスタッフを探していました。そのとき、こどもソーシャルワークセンターとのつながりのある「セレンディップ」で生活・自立訓練を受けて、就労できる時期にきていながら、アルバイトをはじめの一歩を踏み出すことができないまきさんを紹介されました。卒業した学校での高校内居場所カフェのピアスタッフの話をしたところ、挑戦したいとの返事で活動をはじめることになります。

本事業での様子

高校内居場所カフェでのスタッフ活動は、はじめは緊張で固まり、なかなか思うように動いたり居場所にやってくる高校生と関わったりできない様子でしたが、真面目に仕事に向き合おうとする姿勢が強く、絵を描く特技を生かすなかで、やがて回数を重ねるうちに場や人への安心感を覚え、自ら高校生と関わるようになり、笑顔も増えていきました。また夏頃から、高校内居場所カフェだけでなく、あおぞらカフェなどの地域のサロン活動にもピアスタッフとして参加するようになったところ、真面目な仕事ぶりを年配のサロンのスタッフに褒めてもらうことが多くあり、高校内居場所カフェだけでなく、こちらの活動へも積極的に楽しんで取り組んでくれました。そのようにまきさんの働く姿を一目みたいとセレンディップの仲間たちもサロン活動にやってくるなどの姿も見られ、まきさんがサロンのお客さんを広げる役割も担ってくれました。

本事業を終えて

本事業を通して、人との関わりにおける成功体験や自身の成長・変化を自覚する場面が多々あったことから、自他ともにまきさんの世界が広がり社会や新たな人とのつながりができていったことが顕著に感じられたことや、セレンディップの支援もあって、年度末にはついに就労につながることができました。これによってまきさんの本事業でのピアスタッフとしての活動は無事に終わりました。

りょうたさんのケース

りょうたさんの抱える生きづらさ

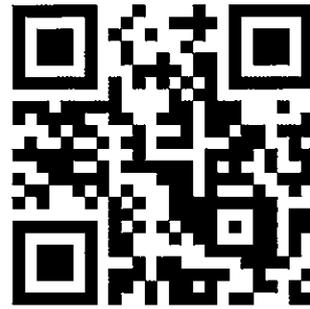
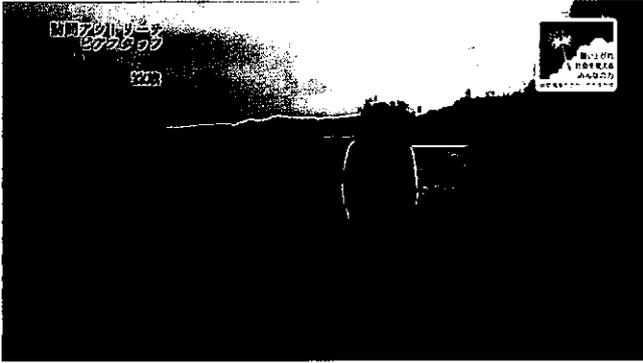
大学中退

ひきこもり

対人不安

場面緘黙

社会体験不足



ピア相談員りょうたの物語動画

本事業参加前の状況

大学進学後のある日、突然大学へ行くことができなくなりひきこもるようになってしまいました。やがてひきこもって生活する中で外の社会とのつながりも途絶えてしまいます。ひきこもり支援センターから紹介されて、こどもソーシャルワークセンターでの居場所活動に参加するようになったりょうたさん、ゲームがとてもうまいことから、ある時に中学生の活動にボランティアで参加したところ、中学生といい時間を過ごすことになりました。この仲良くなった中学生が一ヶ月ほど入院することが決まったことから、入院中にオンラインゲームを一緒にしようというところからりょうたさんのピアスタッフ活動がはじまりました。

本事業での様子

居場所活動で自分のペースで過ごしていたりスタッフとの関わりだけのころは、ほとんど話をするのがなかったのですが、入院中の中学生のオンラインゲームを使ったアウトリーチ活動をスタートしたことをきっかけに、りょうたさんにとってセンターは居場所でゆっくり過ごす場から、就労体験をする場が変わっていきました。ちょうどそのころ、不登校の小学生の家に家庭訪問活動をしていたこともあり、スタッフがりょうたさんに声をかけたところ関心をもったことから不登校の子どもへのアウトリーチ活動にも参加するようになりました。ひきこもり状態ということでしたが、この間、自身の都合で休むことはありませんでした。アウトリーチ先の子どもとゲームを通じた関わりで協力をしながらゲームを進めたりする中で、子どもからの要望に応えることも増え、笑顔も交えながら取り組んでくれました。

本事業を終えて

現在は、センターに来た時のことを考えると驚くほど笑顔でコミュニケーションを交わすことが増えてきました。就労支援事業ですが、家庭での経済的な事情があまりないこともあってか、就労して一人で生活するというイメージをりょうたさん自身はまだ持てていないようなので、この事業を引き継いだ新たな事業で引き続き力をつけてもらえればと関わってきたソーシャルワーカーは考えています。

マスコミなどの取材における「知見の共有」

マスコミに協力し、新聞やテレビを通して事業や事業を通して見えた社会課題など「知見」を伝える機会を作り出しました。特に「深夜のネットアウトリーチ・オンラインサロン」活動についてのマスコミの関心は高く、全国放送の番組で何度も取り上げられるほどでした。

テレビ

毎日放送(2021年9月16日)

よんちゃんTV 匿名取材班スクープ「SNSにも深夜に書かれる「助けて」のSOS」

大津市でのヤングケアラーの兄による小学生死亡事件を受けて、深夜のネットアウトリーチ事業の紹介と、家出やヤングケアラーの経験をもつピア相談員のインタビュー



NHK 総合/滋賀県域(2021年9月20日)

おみえ 630「居場所のない子どもを支援するNPOが大津市で活動報告会」

9月20日の本事業中間報告会の取材映像と理事長インタビュー



NHK 総合(2021年10月12日)

おはよう日本「模索する現場は 深夜のネットアウトリーチ」

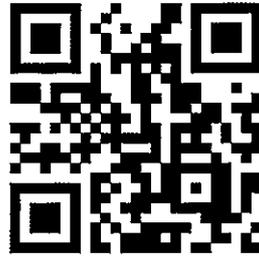
大津市でのいじめ事件から10年を受けて、深夜のネットアウトリーチ事業と不登校、いじめの経験をもつピア相談員のインタビュー



NHK 総合(2021年12月3日)

ニュースきん5時 「コロナ禍深夜のSNSで救いを求める子どもたちの声とは」

深夜のネットアウトリーチ事業の紹介(緊急宿泊支援の場面あり)と家出の経験をもつピア相談員のインタビュー

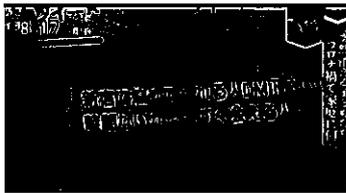


NHK 総合(2022年2月8日)

あさイチ 「突然消える子どもたち ~コロナ禍の家庭で何が~」

深夜のネットアウトリーチ事業の紹介(緊急宿泊支援の場面あり)と家出の経験をもつピア相談員、緊急宿泊支援をした子ども若者のインタビューと理事長のゲスト出演

<Aパートその1>



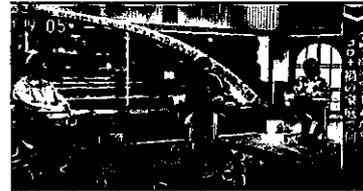
<Aパートその4>



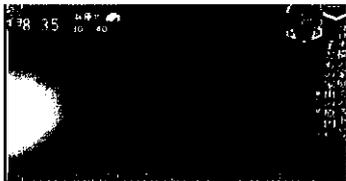
<Aパートその2>



<Bパート>



<Aパートその3>



<Cパート>



NHK 総合/関西圏(2022年2月26日)

関西ニュース「居場所ない子ども支援 NPOの活動報告会」

